

国際学部

「多文化公共圏センター」の開設

宇都宮大学では地域貢献事業に取り組んでいます。その取組の一つ、「多文化公共圏センター」の活動を紹介します。

各国留学生との連携・協力



コーヒー・ビールと共に



交流会（写真提供：下野新聞社、平成19年12月7日朝刊）



国際協力に関する会議



国際キャリア合宿セミナーでの討議

「多文化公共圏センター」の目的と「交流会」の開催

2008年4月宇都宮大学国際学部は「国際学部多文化公共圏センター」(Multicultural Public Sphere Center)を開設する予定です。「センター」は栃木県内外の自治体・国際交流協会・教育委員会・市民団体等(NGO/NPOを含む協賛団体)や海外の交流協定締結大学とネットワークを形成し、情報を交換し合いグローバル化に関わる実践的諸課題を解決することを目的としています。

この準備段階として2007年12月6日に栃木県内17市町の国際交流関係部局と栃木県並びに宇都宮市国際交流協会との「交流会」を開催し、地域のグローバル化に関わる諸課題について意見を交換しました。地域連携・地域貢献が重要課題の一つだからです。

「多文化公共圏」は

大学院国際学研究所博士後期課程のキーワードです

地球温暖化など国境を超える(Transnational)課題への対応や外国人との「共生」(Coexistence)への対応はわたしたちの地域でもすでに始まっています。持続可能な開発や環境に配慮した生活(ecological)への行動は、国際社会のスローガンとなっています。この運動や行動は国家や自治体による事業の推進もさることながら、市民一人ひとりの自覚が凝集してはじめてより大きな力が発揮されます。

2007年4月に開設された大学院国際学研究所博士後期課程では、このような国家を超えた課題解決の方法を「多文化公共圏」の教育研究を通して実践しています。国際学部・大学院国際学研究所は、10年以上にわたる教育研究成果の蓄積を地域

と世界に発信していきます。「多文化公共圏」は国際学研究所博士後期課程のキーワードです。

「多文化公共圏センター」は公共圏の形成を応援します

世界各地からやって来た、さまざまな文化や宗教や慣習をもつ人たちがわたしたちの周辺に暮らしています。大学には留学生がいます。工業団地で働いている外国人がいます。

若者や老人、主婦、お店の経営者、サラリーマンがそれぞれ自分たちの職場や生活圏で暮らしています。

こうした「場」の社会から抜け出して、みんなが集い共有できる空間やサロンが必要だとは思いませんか。コーヒーやビールを飲みながら、情報を交換し合ったり、イベントの相談をしたり、若者から老人、子どもまで、先生から学生、お医者さんからサラリーマンまで外国人も

含むいろんな年齢・職業の人たちが自分たちの生活圏を脱け出して連帯する場を創りましょう。「縦社会の場」から「横社会への連携」が日常的課題からグローバルな課題解決へとつながるはずです。「多文化公共圏」は議論・合意形成の場であり、それは世界中どこにも存在する空間です。「センター」は「多文化公共圏」の創造を応援します。

「多文化公共圏センター」は次の事業を行います

「多文化公共圏センター」は国際協力・交流ネットワークのアンテナです

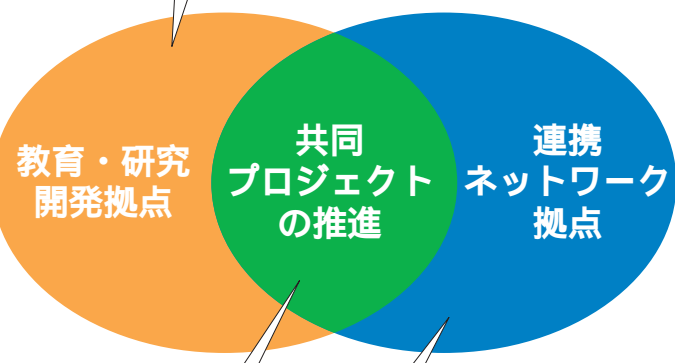
「多文化公共圏センター」は国際協力・交流ネットワークのアンテナです

「多文化公共圏センター」は地域の自治体と市民団体(NGO/NPO)とを結び多文化交流・国際協力に関するネットワークのアンテナとしてだけでなく、集合・議論・合意の成果を世界に発信するアンテナとして大学と地域と世界をつなぎ情報の収集・提供・発信を行います。また、海外の学術交流協定

- (1) 自治体・国際交流団体・市民団体(NGO/NPO)と外国人コミュニティとの交流や国際協力・多文化交流・貢献活動などの分野での相談・協力・共同研究に対応します。
- (2) 学生・市民団体等(NGO/NPO)の国際協力事業への参加を支援します。
- (3) 国際協力・貢献、多文化交流に関する理論的実証的研究と教育による人材育成を行います。
- (4) ホームページや機関紙を通して大学・学生・自治体・国際交流団体・市民団体(NGO/NPO)とのネットワークを構築します。(準備室 渡邊直樹)

宇都宮大学国際学部 多文化公共圏センター

多文化交流・国際協力に関する理論的実証的研究開発



共同調査、共同研究、受託研究

多文化交流・国際協力に関する連携

お問い合わせ先

「国際学部多文化公共圏センター」(準備室)

TEL 028-649-5228

E-mail tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp